国民栄誉賞の記念品 雨宮弥太郎さんが制作

「山梨の硯に光 喜び」

国民栄誉賞を受賞した将棋の羽生善治氏(47)と囲碁の井山裕太氏(28)に、早川町で採掘した雨畑石で作った「雨畑硯(すずり)」が記念品として贈られた。制作した富士川町鰍沢の硯作家で雨端硯本舗の雨宮弥太郎さん(56)は14日、「賞に見合った品格を持たせようと作った。山梨の硯に注目が集まるのはうれしい」と話した。

雨宮弥太郎さん

雨宮さんは江戸時代から続く硯匠家系の13代目。昨年は国宝薬師寺東塔（奈良市）の大修理事業で奉賛する作家に選ばれた。雨宮さんによると、昨年12月に内閣府から電話で制作の依頼を受け、国民栄誉賞の記念品であることは今年に入って告げられた。1カ月弱で二つを仕上げた。

サイズはいずれも幅7・5センチ、長さ11・5センチ、厚さ1・8センチ。羽生氏には将棋の駒をかたどり、立体感を出す「薬研彫り」を採用。井山氏には碁盤をイメージして硯の縁に線を入れ、墨をためる「海」から墨をしぼる「陸」の傾斜をなだらかにした。

早川町の雨畑川で採掘される雨畑石が原材料。石に「鋒鋩(ほうぼう)」と呼ばれる粒子が均一に含まれ、滑らかでつやのある墨を作ることができるという。

雨宮さんは「制作で硯と向き合う時間は精神を統一することができる。将棋盤や碁盤を前にした棋士と共通する部分があるのではないか」と話す。「日本の伝統文化にスポットが当たってうれしい。長い歴史がある山梨の硯の良さが広まってほしい」と願った。

〈上田康太郎〉

国民栄誉賞授与式で羽生善治氏に贈られた記念品（写真上）と井山裕太氏に贈られた記念品（同下）＝首相官邸（13日）